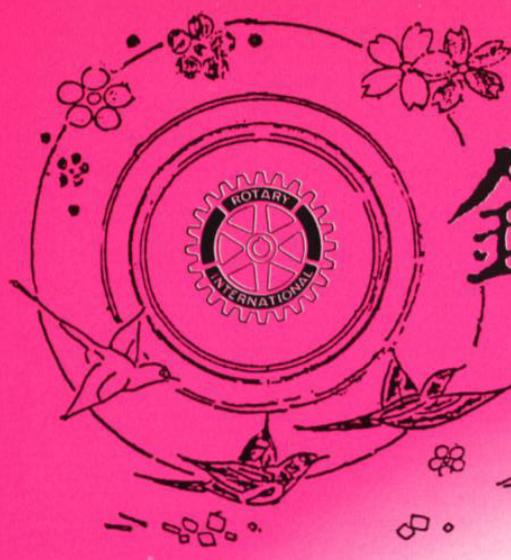
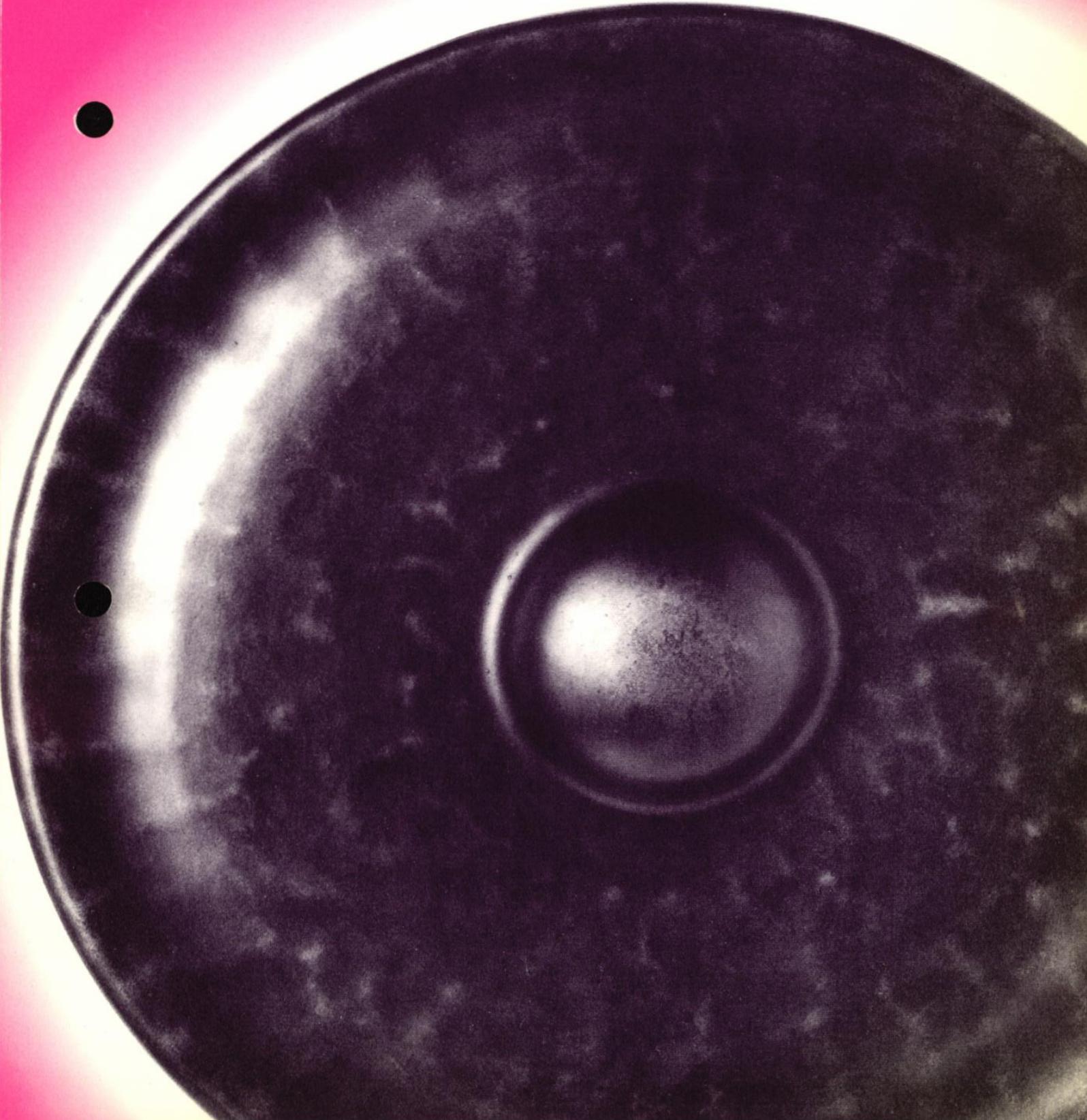


ROTARY CLUB OF **KANAZAWA-NORTH**

1996年2月29日 第554号



# 金澤北ロータリークラブ



## I M に 参 加 し て



会長 石丸 幹 夫

IM即ち、正式には1995-96年度国際ロータリー第2610地区石川第1分区、第2分区都市連合会（INTERCITY MEETING）が2月12日珍しく暖かい日に小松東ロータリークラブのホストで小松市民センターにて行われました。これは特別講演を中心に、あるテーマをきめて、ロータリーの勉強をしようというわけです。

## 《プログラム》

9:00 受付開始  
9:30 開会点鐘 都賀田伯馬第2分区代理

- 開会宣言 岡本安七IM実行委員長 君が代、奉仕の理想  
開会挨拶 都賀田伯馬第2分区代理  
歓迎辞 木崎馨山 小松東RC会長  
ガバナー挨拶 湯尻清一郎  
10:00 基調講演 「ロータリーと環境保全」 蜂谷弘道 RI第2760地区直前ガバナー  
11:20 ビデオ上映 地球大紀行 太陽系第3惑星・46億年目の旅  
12:00 昼食  
12:50 パネルディスカッション 私達のSNC活動 小松東RC  
13:50 全体討論会 「ロータリーを本音で語る」  
コーディネーター 地区幹事岡村幸一  
パネリスト ガバナー(湯尻清一郎)、パストガバナー(泉 健三、内田 一)  
木崎馨山小松東RC会長  
15:10 講評 ガバナー湯尻清一郎 次期ホストクラブ挨拶(未決定)  
閉会挨拶 第1分区代理 中田淳造 手に手をつないで 閉会宣言  
15:40 閉会点鐘 都賀田伯馬

**基調講演要旨** ポール・ハリスがRCを作った頃は、会員のお互いの職場を尊重し、もり立てる気風があったので、皆シカゴの一流企業に成長した。私がRC新人のときはこの新人の話をクラブの皆がもりたててくれたが、今はどうだろうか？

ロータリアンの心は寛容と忍耐の精神であり、茶室には権力、身分、財産、年齢を捨てて、狭い入り口より入る利休の茶の精神に在る。

台湾の国際ロータリー大会で小松東RCのSNC (Super Naturing Center-コロンビア国マカレナ熱帯原生林の保護と世界の青少年を対象とした自然教育、約2万ヘクタール) の展示をみた。このようなプロジェクトは世界ではじめてである。大いに称賛すべきである。

**パネルディスカッション** 先ずテープで森林の音をきく。地球環境保全の大きな役割をしめる熱帯雨林保護は絶対不可欠の急務であるが、RIに呼びかけても進展せず、小松東RC単独でもやろうとスタートした。(金沢北RCは他クラブのトップをきって26万円協賛)

質問：そこまでしなくても地域の環境保全を各RCが心がければいいのでは？

返答：このまま破壊が進めば2025年には熱帯雨林は消滅し、世界は砂漠化します。そして地球の気温は3度上がり、東京もニューヨークも水没します。これは人類のためにも急務なのです。その他現地への行程に川を8時間も船でゆく話など苦労話があった。

**全体討論会**

内田パストガバナー：奉仕のための団結と、恋いをするように友として仲良く、自分をおさえて、常に夢を持って行動しよう。

湯尻ガバナー：奉仕とは自分の真心を尽くすことである。

山越(小松東)：世界の資源を使って生活している日本人は地球に感謝を、お返しをするべきです。

石丸(金沢北)：ロータリーに趣味と職業を利用して活力を、

湯尻ガバナー論評：後50-60年後の地球の変貌には、驚愕、SNCは大変勇気ある行動である。称賛されるべきである。夢のないロータリーはあってはならない。

当日出席者：中谷、乙村、清水、奥田、越田、安宅、石丸、山岸、今井、中田(秀)、小林、田中

## 「私 の 一 枚」

中 田 孝 憲

仕事から、転勤が多く、一つの趣味をじっくり磨き上げる機会には恵まれませんでしたが、新しい土地に赴任する度に、その土地の自然・風物・スポーツ等をできるだけ楽しむようには心掛けてきました。

入社4年目に赴任した秋田と、次の仙台では、山登り、スキー、ゴルフ、と東北の豊かな自然を楽しみました弘前の桜と岩木山登山、酸ヶ湯温泉と八甲田山での春山スキー、高山植物の宝庫早池峰登山、猛暑の阿武隈川河川敷での終日ゴルフ、鳥海山・月山の春山スキー、ねぶた祭りのはねと(跳ね人)経験、紅葉の岩手山・八幡平縦走登山と玉川温泉、田沢湖高原・網張の雪深い中でのスキー、等が楽しい思い出になっております。

札幌では、人口140万人(当時、現在は175万人)の都会生活と雄大な自然を共に楽しみました。ニセコ手稲、札幌国際等のスキー場は、アスピリンスノーで一気に上達したような気分浸らせてくれました。北海道は緯度が高いので夏場は日没が遅く、ゴルフは午後のスタートでも充分1ラウンド回れます。ベントの粘るラフには泣かされました。

前任地、関西では、伝統の町京都・奈良、商いの町大阪、港町神戸が、いずれも電車で1時間以内であり、歴史と文化と自然が満喫できました。入社直後に給料1カ月分以上で買ったペンタックスSPも、寄る年波には勝てず動きが怪しくなってきたのと、私のピント合わせの視力にも不安が出てきたので、オートフォーカスのカメラに買換え、写真をとりによく出かけました。

印象深かったのは、大阪城公園の梅、吉野と大阪造幣局の桜、箕面の滝と新緑、室生寺の石楠花、長谷寺の牡丹、中之島公園の薔薇、天神祭りの船渡御、南禅寺の紅葉、高野山のお墓群、六甲山から一望にできる神戸・大阪湾の夜景、等です。

とりわけ、見通しの良い日の六甲山からの夜景は、「息をのむ」荘厳さです。写真をとるには、とびっきり見通しの良い日を選ぶ必要があります。幸い、六甲山登山口に近い西宮の芦屋寄りに住んでいましたので、当日自宅から大阪湾の対岸がすっきり見える事を確認してから、六甲山に登ことが出来ました。ただ、休日で本当に綺麗に見える日は年間でも数日ではなかったかと思えます。見通しの良い日は決まって、風が強く寒いので、防寒具と重くしっかりした三脚が必要です。撮影ポイントはオリエンタルホテル裏の「天狗岩」が、人工光も視界を遮る障害物もほとんど無く最高です。ただ、岩の上は狭いので、混むと順番待ちとなります。掲載の写真はこうして撮影した阪神大震災前の神戸です。出来ばえは別にして、夜景の素晴らしさを思い起こさせてくれる、懐かしい「私の一枚」です。



六甲山から見た神戸の夜景(震災前)

